

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2017年7月 No.25

日本人高校生「中国ふれあいの場」訪問事業



今号の内容

- ◇ 大学院留学アジア奨学生
- ◇ 日本人高校生「中国ふれあいの場」訪問事業
- ◇ 第11回かめのり賞 募集案内
- ◇ 講演会 募集案内
- ◇ かめのりコミュニティ仲間からの便り(特集号)

大学院留学アジア奨学生

新たに4名が奨学生の仲間入り

平成29(2017)年度採用の奨学生が決定し、4月8日(土)、新奨学生の奨学生証書授与式が行われました。また、本年3月で修了した奨学生にも記念品が贈呈されました。財団役員、選考委員の他、奨学生OB、OGが出席し、式後の懇談会では大学院での研究の話にとどまらず、日本の生活や自国と日本の違い、今後の進路へのアドバイスにいたるまで、さまざまな話題が飛び交い、新たなスタートにふさわしい会となりました。



大学院留学アジア奨学生

新奨学生の紹介

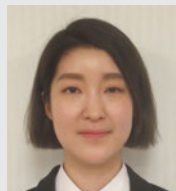


楊 慧敏 (ヨウケイビン)
中国
同志社大学社会学研究科社会福祉学専攻 (博士後期)

私は中国の高齢者問題、特に農村部において自立できない高齢者の介護問題に注目し研究を進めています。その理由として、中国農村部は都市部より高齢者の介護問題（介護ニーズが増えつつあるが、家族扶養機能の弱体化）が深刻であることがあげられます。それにも関わらず、中国政府は長期介護保険（日本の介護保険に類似するもの）を試験的に導入する地域が都市部に限定しています。そこで、私は中国農村部において自立できない高齢者が社会サービスを求めているが、経済力が低いことと社会サービスが不足しているという問題意識をもち、農村部の現状に応じた介護保険モデルを構築していくことを考えています。

私はかめのりの奨学生として、人と人の繋がりを大切にするとともに、中国だけではなく高齢者問題が深刻である国においてその問題の解決策を提案できるように精進したいと考えています。

今後の目標として、一教員として日本で勉強したことを、社会福祉を勉強したい学生に余すところなく教えるとともに、中国を含むアジア、特に貧困地域の高齢者福祉を研究したいと考えています。



趙 沼振 (チョソジン)
韓国
東京外国語大学総合国際学国際社会専攻 (博士後期)

この度は「かめのり財団」の奨学生としてお選びいただき誠にありがとうございます。昨年、経済的・精神的側面で追い込まれ、絶望感を抱えていました。そこで、「かめのりファミリー」に運命のように出会ったのです。ピンチをチャンスに変えるためには、自ら挑戦していく必要がありました。その結果、おかげさまで自分がやり尽くしたい研究を続けられるようになりました。

私は1960年代後半、世界の各地で同時多発的に起こった既存のシステムに対する「革命」に着目しています。日本では60年安保を経て、学生中心に、旧来の文化的・思想的規範に対しての対抗文化が作り出した文化的現象が起こりました。この現象を世界史的に位置づけることはもちろん、原理的観点からアジア地域の同時性も考察したいです。

この研究を通して、私は若者として思考様式を自ら構築していきたいと思えます。社会に溢れる情報をしっかり吸収して自分のものとして消化したいです。そのためには、常に「考える」行為をしなければなりません。さらに、世代・国家を超えてさまざまな人々と交流をしながら、お互いの考え方を共有したいです。それを通じて、研究生活を楽しみながら自我を育てていこうと思います。



白 瑞 (ハクズイ)
中国
中央大学法学研究科民事法専攻 (博士後期)

私は民法の中でも家族法を専門分野としており、修士課程では、児童虐待問題に関心があったので、虐待親、つまり子どもを虐待するような親の権利を制限する制度について研究しました。親の権利を制限するということは、子どもの利益を保護するために行われるものです。そして、親の権利が制限された後に、親子関係が回復できない場合に、子どもの安定な監護環境を確保することは重要な課題になります。私は、親権の制限制度だけでなく、制限された後に生じる子どもの監護問題についても、研究していきたいと思えます。

今回はかめのり財団の奨学生として選ばれ、本当に感謝しております。これから、財団の皆様には恥じないように、学業に精進したいと思います。そして、将来、一教員として、中国を真の法治国家とするために、日本で学んだことや、法律があるべき姿を次世代に伝えたいと思えます。私を支援してくださった皆様のご期待に添えるように、国際友好に貢献し、日中間の学術交流の役に立てるように頑張っていきたいと思えます。



郭 昊 (カクコウ)
中国
立命館大学文学研究科行動文化情報学専攻 (博士前期)

昔から図書館は情報の収集、整理、保存、提供の場ですが、現在のデジタル時代、デジタル社会においては、その役割はより大きくなりました。しかし、現状では日本において、図書館の一般利用者数が徐々に減少している一方、図書館サービスがあまり進展していないため、外国人などの利用者が利用できない状況となっています。私はそれを問題視し、「デジタル環境下における図書館の多文化サービス」をテーマとして研究しており、ICT、情報技術を用いて、新たな視点からこれからの図書館サービスを再認識したいと考えています。

将来、私は図書館に入って司書として働きたいと思えます。その時の私は外国人利用者、研究者、そして司書、この3つの立場からこれからの図書館サービスをより深く探求し、より多くの人に情報を提供できる図書館環境を作りたいと思えます。

今後はかめのり財団の奨学生として、奨学生の名に恥じないように学業に精進し、頑張っていきたいと思えます。この度はかめのり財団の奨学生として選ばれて、心より感謝申し上げます。

修了生からのことば

未来をつなぐ修了生たち。4月からそれぞれの道を歩み始めました。

「3年間、ありがとう！」

胡 新祥 (コシンショウ) / 中国 現在、立教大学大学院文学研究科日本文学専攻 (博士後期) に在籍

かめのり財団の大学院奨学生として在籍の3年間を振り返ってみれば、本当に幸せで有意義な3年間でした。多大な経済的支援だけではなく、西田事務局長をはじめとする財団の方々が作ってくださった「かめのりファミリー」で自分の居場所を見つけました。そして、「かめのりファミリー」の中で異なる文化を持つ他大学の奨学生と仲良く交流できて、良い刺激をたくさんいただき、知識的にも人格的にも自分自身の成長に繋がっています。奨学金はほかの奨励金とは違

い、研究成果を出す前に支給してくださるものですから、わたしにとってかめのり財団の奨学金は決して優秀者へのご褒美ではなく、自分をより良い人間に育てるための資金です。そのため、常に感謝の気持ちを念頭に置き、いつかかめのり財団で受けていた恩義をほかの方に還元したいと思っています。研究進捗については、1年間延期することになっていて、今は来年度3月の卒業を目指して博士論文の執筆に励んでおります。博士卒業したら、中国の大学で日本語を教



えたいと思います。教育活動を通じて日中友好に少しでも貢献できたらと願っております。

「世界の第一線で活躍する研究者を目指す」

姜 哲敏 (カンチョルミン) / 韓国 現在、筑波大学 博士特別研究員

3年前、かめのり財団の奨学生に採用が決まったときは、嬉しい反面、心配が大きかったです。かめのり財団が奨学金を支給するということが教育投資だと思います。しかし、自分がその教育投資に対して大きな成果を出せるのかに関して自信が持てませんでした。それから3年が経ち、博士号を取得して、かめのり財団を卒業することになりました。ここ3年を振り返ると、かめのり財団が私にしてくださった教育投資は、非常に大きい効果を生み出したと、今は自信をもって言えます。

私の専門は、社会的現象の因果関係を明らかにすることであり、主に環境や都市を研究の対象としております。具

体的には、黄砂が韓国の子供の健康に与える影響や、日本のディーゼル車排気ガス規制の評価に関する研究を行っております。私の研究成果は科学的根拠に基づく環境政策の立案に貢献し、世界各地で環境問題に苦しむ人々を救えると期待します。

このような研究活動ができたのは、かめのり財団の教育投資のおかげです。また今後は、研究成果を国際的に評価の高いジャーナルに掲載し、世界の第一線で活躍する研究者になることを目指します。そして、かめのり財団の教育投資がさらに大きな価値を生み出すよう研究を通じて社会に貢献いたします。



「かめのりドリーム」

洪 驥 (コウキ) / 中国 早稲田大学大学院法学研究科公法学専攻 (博士後期) に在籍

「年年歳歳 花相似たり 歳歳年年 人同じからず」。花は散るが、人は夢を見る。

この3年間をかけて見た夢を、どう振り返ればよいでしょうか。夏の研修交流会、鳴門一金沢一札幌、南から北へと、日本列島を貫通する旅でした。瀬戸内海の渦巻く青緑色、北陸新幹線E7系の青色模様、そして、9月札幌の涼しい青い空。これは、3つの青色によって私の心に刻まれた一思い出の夢の色です。

私は、博士号を取得した後帰国して、中国の大学で研究と教育をしたいと思っています。日本留学8年間(予定)、もっぱら日本法(憲法、地方

自治法)に関する研究を行ってきました。今後も、日本という国を研究対象として、中国の知識層と一般人に憲法をはじめとするその問題状況を紹介し、私の見た日本を伝えたいと思います。これは夢でなく、使命です。

かめのり財団からは卒業しましたが、研究者としての人生はこれから始まります。今後も私は、「かめのりファミリー」の一員として誇りを持って活動したいと思っています。早稲田大学で「反骨」と「在野」を学んだとすれば、かめのり財団の奨学生として、博愛と世界市民としての精神に触れたと思います。「かめのり財団」創設者の



お父様、亀範さんはおそらく国際協調と世界平和という夢の実現を目指していたのではないのでしょうか。

最後に、3年間役員の皆様にお世話になったことにお礼を申し上げて、私の最後の報告といたします。

「日本の留學生活の振り返りと展望」

蔡 睿 (サイエイ) / 中国 現在、株式会社ワークスアプリケーションズ 勤務

修士論文のテーマは『集団的争議行為についての日中比較法研究—立法措置を中心に—』でした。本論文は、中国におけるストライキの特徴に基づき、労働者の争議権を保護するため、ストライキ権立法及び争議行為の正当性の判断基準を比較研究することを目的とします。日本における山猫スト及びピケティングの判例法理と学説を調査し、中国の現状に対する適用性について具体的に議論しました。本稿

の結論が中国のストライキ立法に少し役に立てば幸いです。

かめのり財団からのご支援を頂いているからこそ、無事に修論を完成して、何の不自由もない2年間の院生生活を送ることができました。心を込めて感謝を申し上げます。かめのり財団で得たたくさんのもので、何より大切なのは人との絆です。意気投合する奨学生メンバーたち、母親みたいな西田事務局長、家族の



ような事務局の皆さん。これは私の人生の一番の宝物です。

社会人になった私はグローバルリクルーティングの一員を目指しています。グローバル化が進んでいる当社では、大学院で身につけた知識を生かして、海外で頑張っている社員の利益と福祉のために勤めていきたいです。

「Start again, Make history」

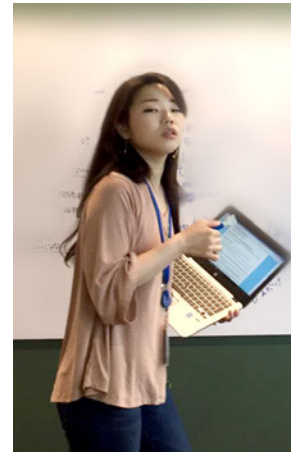
金 ボラ (キムボラ) / 韓国 現在、アマゾンジャパン合同会社 勤務

私は東京大学経済学研究科で、“Social Learning Effect on HYV Adoption: with Heterogeneous Risk Preferences” という論文で、修士号を取得しました。この論文は、インドネシアの農村におけるHYV(高収量品種)導入に、農民間のソーシャルラーニングが及ぼす影響の程度が農民一人一人のリスク回避度によって異なるということを理論、実証モデルを通して証明したものです。

大学院での研究は、開発経済学という学問の下で、主に途上国のデータを用いて政策のインパクトを正確に測るということにフォーカスしており、データに基づいて現状を分析し、それを人々の生活を改善するために活用するという、自分が子供の時から憧れていた姿に近づけら

れた上に、実際社会人になってから行っている業務そのものにもとても役立っています。大学院での研究生生活で身につけた様々な知識・スキルのおかげで、より自分の理想像に近く、自分の成長につながるポジションでキャリアを始めることができたと考えています。

今後は、このような自分の強みをより伸ばし、今のポジションで一人前として認められ、データだけでなくビジネスもしっかり理解して活躍したいです。何よりも、お客様の Customer experience を常に意識し、お客様のためになる新たなサービスを提供できるような人になりたいです。また、自分に与えられたチャンスを最大限に活用し、国際社会で活躍できる人材になっていきます。



「International Business Bridge」

周 静 (シュウセイ) / 中国 現在、ROAD International 株式会社 勤務

今年の4月から、進路を変更し、ROAD International 株式会社というコンサル企業に就職することになりました。ROAD International を中国語で表記すると、「潤道国際」になります。企業としてきちんと利益を得て成長していくとともに、きちんと社会にも貢献するという理念に基づいた会社名です。4月の新奨学生歓迎会では、木村理事長の社会貢献の必要性和大切さに関する言葉にとっても感銘を受けました。学位をとり、自分の力で社会貢献したいと、気持ちだけにとどまらず、実際に行

動に移すことが大事だと思います。ただ、何を媒介として行動するか、悩んでいた時期がありますが、ここ2ヶ月、今の会社で働き、その悩みが解決できました。

International Business Bridge は会社のアイデンティティーみたいなものです。まさに日中間の架け橋です。実際の業務内容としては、日本のリソースを生かし、中国の企業家たちの課題を解決することを手伝っています。5月、中国小売業の大手企業のトップ20人に向けて、日本で研修を行いました。彼らの課題であ



る、ライフスタイル・ショップの売り場作り、在庫管理、人材教育などに合わせ、カスタマイズして内容を用意し、研修を行いました。経済発展の段階でいうと、現在はまだ日本から中国へと一方向ですが、将来的には是非中国のノウハウも日本と共有できたらと思います。

日本人高校生「中国ふれあいの場」訪問事業

日本の高校生を対象に(独)国際交流基金日中交流センターとの共催事業として「日本人高校生『中国ふれあいの場』訪問事業」が実施されました。

2017年3月17日(金)~23日(木)の1週間、北は北海道、南は沖縄まで、全国各地から集まった日本人高校生10名・教員7名と、中国四川省成都市および北京市を訪問する事業が実施されました。成都では、現地の大学生らとの日本紹介イベントの準備・運営、現地の高校(成都外国語学校)の訪問(授業見学・交流会)、同校生徒宅へのホームステイ、国際交流基金が中国各地に設置している日本紹介ブースの一つ「成都ふれあいの場」の訪問などを行いました。また、北京では、国際交流基金北京日本文化センターでの「訪中のまとめ」グループワークや、天安門広場・故宮の参観を行いました。

ホームステイでは、現地の生徒とご家族の皆様、日本人高校生たちをみな温かく迎えていただきました。美味しい手料理をごちそうになったり、成都の街歩きに連れて行ってもらったりといった心のこもった「おもてなし」を受け、中国の「生」の家庭の雰囲気を経験した高校生たちからは、「本当に家族同士の愛情を感じた」「互いに日本語／中国語はわからなくても、日ごろ学校で学んでいる英語、そして何より素直な感情表現があれば、心は通じると知った」といった声がたくさんあがりました。生徒同士の「お別れ会」では、涙を流しながら別れを惜しみ、日本や中国での再会を約束する生徒も多くいました。一晩と短い時間のステイではありましたが、日中の若者の間に心と心のつながりが生まれたことを、一担当者として非常に嬉しく思いました。



学校訪問では、母語を使わず、説明も含めてすべて当該外国語で行われる(いわゆる「直接法」)ハイレベルな外国語教育の現場や、学校内の寮に住みつつ、朝から晩まで、しかし生き生きと勉強する中国の生徒を目の当たりにし、参加者からは「中国の人は本当に真面目で向上心の強い努力家なのだと思う」「授業が受身ではなく、生徒自ら意見を発して積極的に授業に加わる姿勢がよいと思った」という感想がありました。他方で、日本語の授業では一緒に歌を歌ったり、2人ペアになって相手のことを日本語でみんなに紹介するワークをしたりと、さまざまな形で交流

を行うことができました。

このように、普通の旅行では味わえない多様な活動を通して、第三者を介してではなく、自分の五感をフルに使って「生の中国」を体験できたのではないのでしょうか。実際に触れ合うことで、よいところも悪いところもすべて含めて「相手を知る」ことが相互理解の第一歩であり、それが未来のよりよい日中関係の礎になると信じています。このような日本と中国の若者をつなぐ活動に、今後も全力で取り組んで参りたいと思います。

報告：国際交流基金日中交流センター 金子 聖仁



第11回かめのり賞 募集案内

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。

本年度からプレゼンテーション選考の追加等、内容を一新いたしました。多くの方からのご応募をお待ちしております。

応募締切は、2017年9月22日(金)必着です。

第10回かめのり賞表彰式受賞者の様子



詳しい募集要項や応募用紙は、ホームページよりダウンロードできます。

第11回かめのり賞募集要項

<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

かめのり賞 で 検索

第11回かめのり賞募集概要

《かめのり賞の区分》

第11回では、以下の区分にて「かめのり賞」を顕彰します。

- ①かめのり大賞＝「草の根部門」、「人材育成部門」の2部門
- ②かめのりさきがけ賞

《対象個人/団体の資格》

- ①NPO(非営利団体)、ボランティアグループ、個人であること
- ②日本とアジア・オセアニアの懸け橋となる活動を目的としていること
- ③過去、かめのり賞の顕彰を受けていないこと

《選考基準》

次の点を総合的に評価します。

- ・活動内容とこれまでの活動における貢献度、他団体との有機的な連携や協働
- ・今後の活動への期待と将来の活動への可能性
- ・活動内容における独自性・先駆性

※「かめのり大賞 草の根部門」では、応募団体/個人または応募団体を構成している人々(会員やボランティア)と支援先(サポートされる側)とが直接交流している活動を評価。

※「かめのり大賞 人材育成部門」では、次の世代の社会づくりに貢献できる人材育成を行っていることを評価。

※「かめのりさきがけ賞」では、他にない先駆的な取り組みを評価。

※特に次の2点について焦点をあてている場合は加点要素となります。

- ・アジアの国、地域、人々を中心とした活動展開
- ・若い世代を中心とした相互交流や人材育成の活動

講演会募集

本財団では、アジアの国々との相互理解の促進を目的に、本財団理事である王敏・法政大学教授を講師とした講演会の機会を提供しています。2017年度も講演会開催希望団体を募集いたします。



王敏(ワン・ミン)

法政大学国際日本学研究所教授(日中比較研究、日本研究、宮沢賢治研究)文化大革命後、大学教員から選出の国費留学生として来日、宮城教育大学で学ぶ。お茶の水女子大学で人文科学博士号取得。中国優秀翻訳賞(1990年)、山崎賞(92年)、岩手日報文学賞賢治賞(97年)、を受賞。文化庁長官(文化発信部門、09年)表彰。

詳細はかめのり財団ホームページ
講演会募集案内をご覧ください。

<http://www.kamenori.jp/kouenkai.html>

今後の予定

- 7月 ベトナム中学生日本語キャンプ2017 / 高校生短期交流プログラム(第10期生派遣・韓国) / かめのりスクール2017
- 8月 第4回高校生カンボジアスタディツアー / にほんご人フォーラム(日本)2017 / かめのり地球青少年サミット[KEYS]2017(香港)
- 9月 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会
- 11月 第9回中学生交流プログラム(派遣・中国)

発行人 / 西田 浩子 編集 / 松本 龍一 デザイン / イワブチサトシ (BUTI design) 印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します!

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22 ローヤル若葉211

TEL: 03-3234-1694

FAX: 03-3234-1603

E-mail: info@kamenori.jp

URL: <http://www.kamenori.jp/>